

平成29年度 島根県立瀬摩高等学校 学校評価報告書

評価計画					学校評価の結果・評価・課題・改善案					
中期目標	短期目標 (今年度重点目標)	主分掌	具体的な取り組み事項	短期目標に対する評価指標 (または到達したい状況・状態)	目標値	結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	学校関係者評価	改善案
確かな学力を育む	教職員の授業力向上	教務	互見授業や研究授業、授業力向上に係る研修に参加する。	教員アンケートにおいて「互見授業を期間を活用するなど授業力向上に努めている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	88.2%	A	●互見授業は瀬摩高の相互研修スタイルとして定着し、授業力向上を意識する効果が出ていると考える。 ●県内各校での公開授業等にも参加し、研究機会を保障できた。	A	●今年度の研究授業は積極的なICT活用を促す目的から自主取り組みとしたが、次年度は活用方法のデータベース化を行うために、割り当てを設定したい。
	ユニバーサルデザインを取り入れた授業の実践	教務	瀬摩高校の統一ルールに基づいて授業をし、生徒にとってわかりやすい授業を行う。	生徒・保護者アンケートにおいて「全ての授業で統一ルールに基づいた授業が行われている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	生徒 83.8% 保護者 29.6%	B	●生徒評価は概ね目標の指標に達しており、授業時の瀬摩高統一ルールは定着していると考え。一方で保護者評価は極端に低く、周知がはかれていない現状が明らかである。	B	●授業時のUD化をさらに推し進めるとともに、HP等を活用して保護者への情報発信に努め、瀬摩高校の取り組みを理解してもらう方法を提供したい。
「志」「夢」「未来」を見つめさせる	人権意識・規範意識を高める	生徒指導	いじめや生活の安全に関する情報収集の充実を図る。	生徒アンケートにおいて「『いじめをしない、させない、許さない』を心がけた学校生活を送っている」に対して「A」「B」と回答した割合	100%	93.6%	C	●いじめ対策委員会によるいじめの認定が3件もあり、生徒から伝え聞く状況や不安から、保護者の「いじめの早期発見・対処」について55.8%と低い評価となったと思われる。 ●生徒による評価では、学年会と連携して担任を通じ、また学年集会などで、いじめについての話を再行って意識改革に努めたため、「いじめをしない、させない、許さない」を心がけた生徒が93.6%と高い評価となった。いじめ問題は心身に関わることなので、100%としたい。	C	●対人関係を構築することが苦手な生徒が多い。挨拶ができない、適切な言葉が遣えない、振る舞いなどによって相手を不快に感じさせてしまうことがある。双方がストレスを抱え、いじめへと発展していく場合がある。相手の立場を考え、自分自身を客観視できる目を育てていきたい。そのため生徒指導の在り方として、圧迫対応ではなく、生徒が聞く耳を持ち、伝えたいことが理解できるよう時間を掛けて対応していく。
		図書 (人権教育)	人権・同和教育LHR及び、教職員研修を充実させる。人権・同和教育だよりを出す。	アンケートにおいて「人権・同和教育におけるLHR等で人権意識、規範意識が高められた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 48.4% 生徒 88.5% 保護者 38.4%				
	体験的な教育活動への積極的参加	生徒指導	生徒主体で達成感が持てる部活動や生徒会活動を実施する。	生徒アンケートにおいて「諸活動において達成感や充実感を味わっている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	83.7%	A	●現学校の状況下において、生徒からの評価が83.7%となり、多くの生徒が達成感や充実感を味わっていることには驚きもあるが、目標は達成されたものと評価する。	A	●生徒の達成感や充実感が保護者に伝え切れていないと思われる。(保護者評価67.0%)部活動や委員会活動を保護者集会などで紹介していくことに努めていく。
	キャリア教育の充実	進路指導	社会的・職業的自立に必要な知識の習得と態度の育成を支援する。	生徒・保護者アンケートにおいて「生徒の自立と進路実現に向けての指導・支援に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	生徒 88.8% 保護者 73.7%	B	●生徒からの評価に比して、保護者・教職員からの評価が低い。取り組み内容に関して、保護者向けには情報発信、教職員向けには意見集約や協力要請の在り方の見直しが必要。 ●今年度の業務内容で、あまり評価が芳しくなかったのが、1・2年全員対象の基礎学力模試およびインターンシップ関係であったので、寄せられた意見を参考に改善を図る。	B	●生徒の進路意識の高揚を図るための手立てを充実させるとともに、その取り組みや生徒の状況について、保護者の理解を促進するための情報を、HPや発行物を通して行っていく。 ●進路指導の業務内容は、特定の学年を対象として行うものがほとんどであるため、内容を見てもらいにくいのが、3年間を通したキャリア教育計画について整理するとともにこれを周知いただく努力をする。 ●インターンシップははじめ、広く部外にも協力いただく行事に関しては、先生方の理解が徹底するよう、運営にあたっての連絡調整を密にしていく。 ●1・2年の全員受験模試については、今年度より業者を変更し、生徒に達成感を与えやすいものとしたことには一定の評価があるものの、模試の時期および事前事後指導の在り方に批判もある。次年度は業者が変更となり、模試実施の在り方も根本から見直すことにあるので、これらの課題が解決できるように立案していく。
	個々の生徒のニーズにあった支援を充実させる	保健 (特別支援)	ケース会の開催および当該学年部や教科担当、外部関係機関との積極的な連携を行う。	教員アンケートにおいて「特別支援や教育相談の機能を十分に果たしている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	93.8%	A	●手探りで外部機関とも連携しながら進めてはいるが、クラス担任や学年会の思いを十分には汲み取っていないような気がする。アンケート結果からは高い評価をいただいているが、現状に満足することなく、連携を行っていきたい。	A	●定期的な会議の案内、実施を行う。臨時であっても必要に応じた会議を行っていく。
保護者や地域と共に創る学校	学校活性化のさらなる充実	総務	瀬摩高フェア実施に関わる指示系統を整理し、組織を明確化する。機能的な体制づくりを行う。	教員・生徒・保護者アンケートにおいて「組織の明確化が図られ、瀬摩高フェアに満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 79.4% 生徒 84.9% 保護者 85.8%	A	●生徒、保護者、教員とも満足度は高く、一定の評価を得た。しかし、わからないと回答した割合が15%程度あり、フェアの意義そのものを更に明確化する必要がある。 ●文化祭と合わせ4回の販売機会があり多すぎるという意見が教員にある。 ●一部の地域の方々から見えるフェアの印象に、イベントばかりで遊んでいるとの誤解がある。	A	●夏の暑さ対策への限界、来場者数の少なさを考え、次年度はサマーフェアを取りやめ販売回数を減らす。 ●ファイブスターカンパニーの事業であることがわかるように、役員会や系列長会議を有効なものとする。 ●銀の哲学Bで次の事前指導を行う。 ①フェアに対する意識改革 ②接遇指導
			瀬摩高フェアの年間来場者数を増やす。	年間延べ来場者数が2,000人以上	100%	2717 (599) (321) (1797)	A	●ウィンターフェアの来場者数が多く、チラシの全戸配布が有効だった。 ●サマーフェアの来場者数が少なく、この時期の実施も含めて今後検討する。	B	●大田市内県立高等学校支援連携協議会の予算で、チラシ全戸配布を引き続き行う。
	大田市との連携による学校魅力化事業の推進	総務	魅力化コーディネーター、魅力化担当教員と連携し、校内魅力化推進委員会を年5回以上開催し、全教職員に情報共有を図る。	教員アンケートにおいて「魅力化に向けた教職員個々の意識を高めることができた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	76.5%	B	●魅力化推進委員会は、現在2回の実施に留まっている。瀬摩高校を今後どうすべきかという問題意識は教員に芽生え始めた。しかし、組織的な取組はまだ弱い。 ●瀬摩高を考える会(生徒編、教師編)の実施、大田市教委との連携など、新しい形で瀬摩高校魅力化に取組む1年目となった。	B	●魅力化推進委員会で、育てたい18才像を明確にし、次年度も瀬摩高校魅力化に向けて取組む。
	中高連携認識の向上	教務	担当部署からの情報発信を推進する。	教員アンケートにおいて「情報提供された資料を読み、現状を認識している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	44.8%	C	●情報発信が十分ではなかった。学力保障の観点からも、中学校での学習実態などの情報を提供するように、多面的な情報発信を心がけた。	C	●定期的に、または連絡会等での情報交換が行われた機会に、得られた情報を全体で共有できるように、掲示やメール等で校内での情報共有を進める。
学校関係者への効果的な情報発信	教務	効果的に情報発信を行い、現状の周知に努める。	教職員によるHP情報掲載数：月平均20回以上	100%	9回	C	●教職員からの、学校としての情報掲載は目標の45%にとどまっている。情報発信の意義を呼びかけるとともに、HPの様式変更等を検討し、情報発信しやすい形式を整える。 ●HPアクセス数も68%であり、目標値に届かなかった。閲覧しやすい方法等がないか、検討していきたい。	C	●視覚に訴えるデザインや、日常的に興味を持って見てもらえるコンテンツとなるよう、研究する。 ●スマートフォンなどからのアクセスの割合が高いことから、それ専用の仕様を作ることができないか、検討する。	
			HPアクセス数：月平均3,500回以上	100%	2,045回					

評価計画						学校評価の結果・評価・課題・改善案					
中期目標	短期目標 (今年度重点目標)	主分掌	具体的な取り組み事項	短期目標に対する評価指標 (または到達したい状況・状態)	目標値	結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	学校関係者評価	改善案	
効率的で安心・安全な学校づくり	安全で整備された学習環境づくり	保健	生徒保健委員による学校環境美化のための取り組みを実施する。(清掃用具の点検など)清掃担当による生徒の清掃状況の評価を行う。	教員・生徒のアンケートにおいて「学校の環境美化がに対する意識が高まっている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 74.2% 生徒 91.2%	B	●生徒の評価は高いのは保健委員会の活動として文化祭前のごみの収集や掃除用具の点検を細々とではあるが行ったためか。しかし、校内の美化、掃除の取り組みという点では課題が多い。これが教職員の意見につながっているのではないと思われる。	B	●生徒保健委員会は引き続き定期的に活動を実施していきたい。校内美化、掃除の取り組みについては、生徒委員会の意見を聞きながら、主体的に取り組めるように、また掃除の始めと終わりを明確にしたり、机椅子の下げ方など、全教職員の協力をいただきながら進めていきたい。	
	図書館活用の充実	図書	新聞学習や読書感想文などを契機に、図書を活用する機会をつくる。授業をはじめとし、校内における図書館の利用度を高める。	教員・生徒のアンケートにおいて「図書館を学習活動や生徒の学習に活用できた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 42.9% 生徒 44.4%	C	●以前に比べて図書館にくる生徒は増えているが、まだ一部の生徒に偏る傾向があり、等しく全校生徒が図書館に足を運ぶにまではいたっていない。	C	●全校生徒を対象とした図書館だよりの配布やNSファイルの実施をさらに充実させて、生徒の活字離れに少しでも歯止めがかかるよう努める。 ●図書委員会が主催する図書館イベントや一部教科とコラボした季節の展示やその時々の話題に関するテーマ展示の機会を増やし、図書館の関心度を高める。 ●検索用のPC(2台目)を設置し、ICTを活用した授業に対応した環境を整える。 ●読書感想文の図書選定の際、事前指導や図書館終礼を充実させて、図書の貸出数の底上げを図る。 ●公開授業等を図書館を利用して行うよう働きかける。 ●図書館の月単位での利用予定を掲示または校内ネットワークで閲覧できるようにする。	
				生徒1人当たりの年間の貸出冊数が平均3冊以上(1月まで2.4冊以上)	100%	2.5冊		●図書館に足を運ぶ生徒でも、本を借りる生徒は少なく、そこまでの利用に至っていない。			
				図書館を活用した授業数が年間250時間以上(1月まで200時間以上)	100%	160時間		●教科の特性もあって、図書館の本・雑誌・資料等を利用した授業は、一部教科に偏る傾向がある。			
	寮内での学習を習慣づける	舎務	定期試験期間中の学習時間の確保を特に徹底させる。	教員アンケートにおいて「定期考査期間中にまじめに学習に取り組むことができた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	64.3%	C	●定期試験期間中の学習状況はほぼ良好であったけれど、平素の学習の取り組みはあまり良くなかった。 ●学習することの意義や学習時間の確保が課題である。	C	●平素の学習時間を30分以上は確保できるように粘り強く取り組ませたい。また、進路の面からも学習することの大切さを伝え、学習意欲を高めていきたい。	
丁寧な来客対応・適切な予算執行	事務	丁寧な来客対応、電話対応を行う。	保護者アンケートにおいて「来校時や電話の際、対応が良かった」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	85.6%	A	●目標値を上回る評価結果であったが、更にアップするよう取り組みを進める。	A	●来客や電話に対する丁寧な対応に更に心がけていく。		
			教職員と連携した予算執行をする。	教員アンケートにおいて「事務処理に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	94.7%	A	●目標値を上回る評価結果であったが、更にアップするよう取り組みを進める。	A	●予算要望、予算執行状況や外部講師講演の必要経費などについて教職員と事務室とで早めの情報交換を行い、更に連携を深めていく。	
総合学科の魅力UP	総合的な学習の時間(3年間)の整理と役割分担	系列	産業社会と人間(1年)、進路設計(2年)、銀の哲学(3年)へと繋がる流れを整理し、組織と役割分担を明確化する。	教員アンケートにおいて「組織が整理され、役割分担も明確化された」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	61.3%	C	●魅力化推進委員会で、本校3年間のキャリア構築の流れを整理・体系化することを決めたが、具体的な提案が出来なかった。よって、わからないとした回答が20%、思わないとした回答が30%と、当初の目標が達成できなかった。 ●1年次の内容はほぼ骨格が出来たが、2年次、3年次の内容については出来上がっていない。	C	●魅力化推進委員会で引き続き構築する。 ●3年次「銀の哲学B」のあり方を検討する。 ●2年次「進路設計」の内容を検討する。	
	課題研究発表会の充実	系列	研究内容は系列の学習が反映されたものであり、発表態度や研究手順(動機・仮説・検証・まとめ)も充実したものになるよう支援する。	教員・生徒アンケートにおいて「系列の特色が出せていて、研究手順や発表態度も適切である」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 83.9% 生徒 86.5%	A	●系列での学びが反映されていて、生徒・教員とも満足できる発表会となった。 ●発表場面では、しゃべり用原稿を読むことに一生懸命で、観客に伝えるとまでは至っていない事が課題である。 ●大田市民会館での全体発表が緊急事態で校内実施となり残念だった。	A	●1年次「産業社会と人間」の学習内容に、プレゼンテーション要素を取り入れ、人に伝える訓練をスタートさせる。 ●3年生4月からの課題研究では限界があるため、2年生「進路設計」の後半に研究テーマが設定できるような仕組みをつくる。	
	学年会による指導の充実	各学年会	1年	面談、個別指導による生徒の関心や適性を把握する。教員同士の連携による密な情報交換を行う。	教員・生徒・保護者のアンケートにおいて「学年会による指導や面談等に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 96.2% 生徒 86.8% 保護者 79.5%	A	●多様な特性を有する生徒が多く、合理的配慮を意識しながら、生徒中心に考えて、保護者や関係機関への連絡を密にするなど対応した。また、保健部を中心に学年会を超えた多くの先生方からサポートをいただき、生徒への指導へ活かすことができた。 ●生徒からの回答は概ね肯定的であったが、保護者からの回答は若干低くなっている。学校での生徒の様子が伝わるよう、定期的な学年便りやクラス便りの発行、HPの活用が必要であるとする。	A	
			2年	生徒一人ひとりの理解を深め、個に応じた指導を行う。進路意識の醸成を図り、将来的なビジョンに基づいた学校生活を送らせる。	教員・生徒・保護者のアンケートにおいて「学年会による指導に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 70.4% 生徒 79.4% 保護者 77.1%	B	●日頃から関係各所とは情報交換を密に行い、連携しての対応を心掛けているが、いずれも目標値に届かなかった。個別対応に注力する場面が今年も多く、散発的な関わりになる、伸ばせるはずの意欲的な生徒への動きかけが不十分であるなど反省点は多い。この評価結果を真摯に受け止め、来る3年次に向けて進路意識の醸成を主軸に取り組みたい。	B	
			3年	生徒一人一人の状況に即した、個別面談などの指導や支援を充実させる。学年集会などを通し、進路実現に向けた全体指導を充実させる。	教員・生徒・保護者のアンケートにおいて「学年会による指導に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 96.6% 生徒 88.9% 保護者 82.8%	A	●担任を中心として、分掌や系列の協力を得ながら、個々の生徒の希望・適性に応じて手厚く個別面談を行ってきた。また、機会を捉えて学年集会などを設定し、最高学年としての意識づけを行った。進路が決定していない生徒に対しては、引き続き粘り強く対応していきたい。	A	
適摩高校満足度		教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	生徒アンケートにおいて「学校生活に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	75.7% (80.7%) (74.3%) (72.0%)	B	●75%以上の生徒が満足しているが、1年次が80%、2年次が74%、3年次が72%と学年進行で低い数値になっていることが気がかりである。魅力化を推進しているが、次年度に向け内容を検討し、生徒にとってより魅力ある学校にしていく。	B	●生徒主体の会である「適摩高校を考える会」の充実を図り、生徒の意見を反映した魅力化に取り組んで行くと共に、一層地域連携を進め、魅力化の推進及び発信を行う。 ●また、基礎学力の定着、基本的な生活習慣の徹底を強化し、充実した学校生活を送れるよう指導体制を充実させていく。		

※ アンケート評価 A: そう思う B: ややそう思う C: あまり思わない D: 思わない E: わからない 評価 A: 十分満足である B: ほぼ満足である C: 改善の必要がある